Ｓ級最終審査会　報告書

令和元年9月22日（日）
報告者：隈元　ゆみこ

◆担当ゲーム
　２０１９年度天皇杯皇后杯１次ラウンド（中地区）
　女子　2回戦　１２：００～　奈良学園大学（奈良）　対　県立足羽高校（福井）
　CC：隈元　U1：阿部ちひろ氏（岩手・ブロック）　U2：木村依美里氏（京都・フレッシュ）

◆PGC
・昨日、クルーでゲーム観戦し、スカウティングした両チームの特徴やキーマンについて
・クルーでのテーマについて（ベーシックなメカ、シンプルな判定、処置ミスゼロ）
・課題について（アクティブリード、チェックイン／チェックアウト、POC、デリバリースキル）
・テーマ、課題に取り組むために映像を使っての確認。先週の九州学生リーグでの場面をいくつかクリップし、アクティブリード、チェックアウト、POC、プライマリ、エッジより下での3P ショット、EOQ／EOG、REF-D（今日のゲームで起こりそうなものを Pick）などを確認。
・クルーワーク、ガイドライン、UF のクライテリア、新ルールについて確認。

これまでそれぞれがやってきたことをコート上でだしきれるよう、３人で協力して、最後の０：００までしっかりレフェリングしようと確認して臨んだ。

◆TO ミーティング　（６０分前）１１：００～
・お互いの自己紹介、役割
・ショットクロック：投げ入れやコントロールがあったかなかったか、新ルール等について
・スコア：３or２でブラージしたとき、ファウルコールミス（ファウルされた人をコールなど、実際に前日のゲームで起こっていたので）、チームからの質問などについては、時計が止まっているときに対応することなどを確認。

◆ゲームの実際
　体格的には、大学生の方が少し勝るものの、動きの部分やシュート決定力の部分で高校生が上回るゲームとなった。コートとコートの間が狭い体育館であったため、ゲーム前に両チームにサイドスローオインの時の Def はラインより下がるよう伝えていたこともあり、ゲーム中に余計なことを言わずとも選手たちが対応してくれた。控え選手が出てくると、どちらのチームもターンオーバーが続き、プレイが落ち着かない部分もあった。審判としては、それぞれのプライマリで起こることに対して、判定を積み重ねていった。そんな中、１Q５：２６、その前にノーコールになったプレイ（リング下で C プレイヤーのショットに対する足羽の手）に不満を持った奈良学園大学のコーチが、その後、奈良学園大学のベンチ前で自チームのファウルをコールした隈元に対して、クレーム発言。RFG というところで、TF を

記録することとなった。その後は特に言葉として直接的なものはなかったが、判定に関してゲーム終わりまで、コーチが不満を持ち続けている感はあった。試合は、６８-１０８で足羽高校が勝利。

◆ゲーム後のクルーMTG

・大きなこぼしや処置ミスなく、クルーで協力してゲームを終えることができた。

・前半でＬのローテーションの決断が早く、Ｔがそのことに気づかない場面がいくつか出て、そのために TTL になってしまう場面があった。原因は、まだパイプの真ん中にボールがあるにも関わらず、Ｌがローテーションを起こしてしまっていたことにあったので、インターバルやハールタイムでＬのローテーションのタイミングについて、パイプ内（しかも真ん中）にボールがあるときには、クローズダウンポジションでもう少し吟味してからローテーションを起こそうということ、ローテーションのトリガーをはっきりさせようということを３人で再度確認した結果、後半はローテーションの不具合はほとんどなかった。そういったようにクルーで改善できた点はよかった。

・３人でしっかりとコミュニケーションをとりながらゲームを進めることができ、処置ミスなく終えることができた。（ボーナスショットやファウルカウントなど）

・別なコートの笛に反応してプレイをやめてしまったときに、声かけのみで、そのままプレイを続けさせてしまったが、今日の場面ではしっかり止めて、スローインから始めさせた方がよかったケースがあった。

・トラベリングについて、判定すべきものがあった。

・３sec について、判定すべきものがあった。

・W コールになった際に、しっかりアイコンタクトをとり、プライマリがレポートすることができていた。

・デリバリースキルといった部分では、まだまだ不足する点があった。（TF の示し方やボールコントロールがあったのかなかったのかなど）

◆全体を通して

１次審査を終えてからは、「鹿児島 IH を無事に終える」ことだけに集中し、８月上旬までを過ごしました。１次審査の後から IH が終わるまでの期間の中でも、色々なゲームを担当させてもらい、その一つ一つのゲームも最終審査につながるものだとわかりつつも、そこへの準備はどちらかというと中途半端で。実際の IH でも、４回戦まで割り当てをもらったものの、一番ダメな時の自分がでてしまい、から回ってしまうという始末で、正直、IH を終えるまでの期間は、どう試合の準備をして臨めばいいのか、試行錯誤しながらの苦しい３ヶ月でした。ですが、今思えば、その期間での良い経験もそうでない経験や失敗も、今の自分にとっては必要なことだったんだと。IH が終わってからは、「最終審査に向けて」ということに気持ちをしっかり切り替えて、できうる範囲で研鑽を重ねてきました。トップリーグ研修会でのみっちり２日間を使ったレクチャーや福岡での男子大学生と成年男子の錬成会への参加、ブロック国体での成年男子決勝リーグの担当（A 級更新講習ということもあって、JBA インストラクターによるMTG をいただきました）、先週の九州学生リーグでの福岡ブロック長からのアドバイスなど、短い期間の中で、貴重な経験を積ませていただきました。ブロック国体からの反省を九州学生リーグで。そして、九州学生リーグでの反省を今回の審査ゲームで。「最終審査に向けて」ということも頭

の中にはもちろんありましたが、それよりも、「目の前の一つ一つのゲームにどう向き合うか」そんな感覚だったので、今回の審査会は、もちろんゲーム直前まで相当緊張しましたが、気負うことなく、クルーを信頼して、３人で協力してゲームを終えることができました。いつもどおりの自分で、これまでやってきたことを、まだまだ足りてなかった部分も含めて、今の自分を出しきれたのではないかと自分自身感じています。

　こういう風にできたことも、県内はもとより、九州ブロックの皆さんがたくさんのアドバイスや応援、支えてくださったおかげだと感謝の気持ちでいっぱいです。

　今回の経験を活かし、これからも続く目の前のゲーム一つ一つに対して真摯に向き合っていきます。また、これらの経験を県内や九州ブロックにしっかり還元していけるよう、今後も研鑽を重ねていきます。

　今回の最終審査会にあたり、お世話になりました兵庫県バスケットボール協会の皆様、また、参加に当たってご配慮いただきました福岡九州ブロック長をはじめ、原田審判委員長、鹿児島県バスケットボール協会の皆様に感謝し、最終審査会の報告といたします。ありがとうございました。